

令和元年度 第17回 政策推進会議報告

日 時 1月8日 9時30分～10時27分

場 所 4-1会議室

出席者 20人

1 年末年始期間中の業務状況等について

公営企業管理者から報告

- ・年末年始は、水道・下水道に関しては通常業務に特に大きなトラブルはなかった。
- ・ボートレースについては、12月25日から12月30日まで「今年もありがとう競走」を開催し、6日間で売上は1日平均1億7,554万円で、残念ながら前年度比82.3%で減となった。ただ、入場者数は1日平均3,209人で、前年度比100.5%で若干の増となった。また、1月4日からは昨年の紅白歌合戦に出場されたグループ・純烈をお招きして「純烈祭」というレースを開催しており、多くのファンの方にご来場いただいている。
- ・今年は健康に気を付けて頑張っていきたい。

危機管理安全局長から報告

- ・大晦日まで防犯パトロールを実施したが、幸いなことに事件はなかった。
- ・昨年1年間のひったくり件数は37件で、平成30年の16件に比べて2倍以上となったが、過去2番目に少ない年となった。しかし、本日午前1時頃に今年初めてのひったくりが1件発生してしまったこともあり、ますます気を引き締めていきたい。
- ・これまで街頭犯罪を中心に取組を行ってきて一定の成果があがっているため、今後は別のジャンルにもしっかりと取り組んでいきたい。

総合政策局長から報告

- ・年末の発砲事件を受けて、中央地域課で12月28日から30日まで公用車で特別警戒パトロールを行った。また、12月28日に発生した東難波町5丁目の火災対応のため中央地域課2名、1月2日に発生した田能4丁目の火災対応のため園田地域課3名が出勤した。
- ・年末年始でラグビーを観戦し、周到な準備と最後まで諦めない強い気持ちが大事だと感じた。私たちの仕事にも通じることだと思うので、頑張っていきたい。

資産統括局長から報告

- ・庁舎管理課の警備室での夜間休日受付で、9日間で届け出関係合計229件、1日あたり約25件の対応を行った。届け出の内訳は、一番多いのが死亡で137件、1日あたり約15件となる。他に出生14件、婚姻66件、離婚5件、その他7件である。
- ・本庁舎延命化対策工事のため、年末は12月31日まで、年始は1月4日から1名が出勤した。また、小田地区の複合施設新築工事のため、12月30日と1月4日の2日間、1名が出勤した。
- ・昨年4月から資産統括局に財政課が加わったので、財務部・技術管理部・税務部の間の連携を大切にするようお願いしている。特に、財政課と税務管理課の若手職員を中心として定期的に相互に講師となるような研修等にも取り組んでくれており、自発的にそういったことをしていこうという意識が芽生えつつあるのかなと思っている。今後、技術管理部の中に予防

保全を担当する部署もあるので、そういったところと財務部のファシマネや公有財産の部署との意識の共有等にも努めていきたい。

総務局長から報告

- ・市民サービス部の3サービスセンターは12月28日と1月4日を開庁しており、12月28日は職員9名と委託業者21名、1月4日は職員9名と委託業者26名が出勤した。来庁者数は12月28日が313名、1月4日が325名で、各種証明書の申請が大部分を占めていた。
- ・情報政策課の職員が1月2日にシステム全体のテストのため出勤したが、特に支障はなく、正常に稼働している。
- ・地域研究史料館は1月4日、5日に通常どおり開館した。
- ・コールセンターの問い合わせ件数は9日間で509件、昨年度は6日間で257件だったので、大幅に増えている。内容としては、特に年末年始のごみ収集について69件と、警備室に転送させていただいたが、サルとアライグマの目撃情報が33件と多かった。
- ・今年は大きな課題が2つある。1つ目は、4月から市民課窓口業務の業者が変わるので、スムーズな移行ができるように進めたい。2つ目は、4月から会計年度任用職員制度が始まるので体制をしっかり整えたい。

医務監から報告

- ・感染症、食中毒等の報告・相談はなかった。
- ・斎場は、元旦と3日が友引だったので休業したが、残りの日は最大稼働能力18件の受入れを行い、特にトラブルはなかった。
- ・インフルエンザの定点あたりの患者数は12月末で16だった。これは、注意報で10、警報で30、ピークが40~60となるような値である。恐らくピークは1月半ばを過ぎた頃になると予想している。
- ・休日夜間急病診療所は、小児科が夜間診療を行わないことにより朝から常に20~30人待ちの状態が続いていたようなので、来年からは午前中だけでも小児科医師をもう1人増やせないか検討していきたい。
- ・昨年は組織改正でヘルスアップ担当が保健部に加わったので、学ぶことや驚くことが多かった。今年は健康支援推進担当と健康増進課の事業を検討していく中で、特定健診に加えてがん検診やたばこ対策を広く市民に案内し、市民全体に健康の取組が広がるよう頑張りたい。

健康福祉局長から報告

- ・南北保健福祉センターでは、単身保護の生活保護受給者の死亡が4件、中国残留孤児の死亡が1件発生し、病院や警察からの問い合わせに対応するため、ケースワーカー等の職員が出勤した。
- ・福祉部では、単身の認知症高齢者に関する警察からの一時保護相談1件の他、合計8件への対応を行った。
- ・今年は高齢者計画や障害者計画を策定する年であり、福祉当事者や支援者の意見を十分に聞いて進めていかなければいけない。職員にとっては大変な年になるが、だからこそ連携とネットワークの強化ができる年にもなるので、頑張っていきたい。

こども青少年本部事務局長から報告

- ・保育所は12月28日に323人、1月4日に162人が利用し、通常通りの保育を行った。28日の323人はいつもの土曜日の8割程度、4日は3割程度であった。

- ・こどもクラブ・児童ホームは12月28日に422人、1月4日に164人が利用し、通常通りの保育を行った。こちらも28日は7～8割程度、4日は3割程度であった。
- ・令和2年度に向けて予算・人員を重点的に配分していただいているので、しっかりと取組を進めていきたい。

経済環境局企画管理課長から報告

- ・尼崎城は、年末は12月28日まで、年始は1月3日から開城している。今日は警報が出ているので臨時休城している。3日から5日までの有料入城者数は約1,800人で、年末は1日あたり200～300人くらいだったのでそれに比べるととても多い人数になっている。1月1日は特別入城として尼崎城の1階と5階を無料開放したところ、約900人にご来城いただき、振る舞い酒等を行った。
- ・地方卸売市場は年末12月30日まで開場し、年始は1月5日が初売りだった。
- ・年末年始のごみの収集については、年末は31日まで特別体制で収集を行い、年始は委託業者が4日から、直営は6日から収集を開始し、まずは燃やすごみを中心とした収集を行っている。また、家庭ごみ案内ダイヤルが12月28日までとなるため、30日と31日は直営で電話対応を行ったところ、2日間で87件の問い合わせがあり、昨年の61件と比較すると若干増加したが、大きな収集漏れや大幅な収集遅延などのトラブルはなかった。
- ・尼崎城が3月末で1周年を迎えるのでそれに向けての準備と、来年度予算の中にはSDGsに関連するものがたくさんあり、経済環境局におけるSDGs元年になるかと思っているので、頑張りたい。

都市整備局長から報告

- ・年末の寒波の予報を受けて凍結材等の準備を行っていたが、穏やかな天気が続いたので特に道路の凍結に関する作業は必要なかった。ただ、12月29日に発生した山手幹線の西側で中央分離帯にトラックが衝突する事故により、照明灯が曲がっているという連絡を警察から受け、職員が対応した。その他、設計業務で4名が出勤した。
- ・昨年、住宅の政策でテコ入れしたいエリアを9つ設定し、若手職員を中心に勉強会を開催し、SWOT分析等を行っている。できれば今年中にそれぞれのエリアで定住転入の促進に有効な施策を打ち出せたらいいと考えている。また、最近はJR尼崎が住みやすい街と言われているが、残念なことに阪神尼崎が対比的な駅になっているので、できればそちらも少しフィーチャーされるようにしていきたい。特に阪神尼崎の駅前広場を活用し、例えば移動式のテーブルとイスを置いて滞留時間を長くし活性化する等の取組ができたらと考えている。

消防局長から報告

- ・火災は年末に1件、年始に2件発生した。昨年の火災件数は前年比較で23件減少し、85件であった。件数が2桁台に留まったのは昭和30年以来63年ぶりとなる。平成25年にひたくり防止撲滅宣言を出したことにより軽犯罪がかなり減ったことと比例していると思うが、28年ごろから放火も大幅に減少しており、現在の火災原因の1位はたばこ火の不始末である。
- ・年末年始の救急は昨年とほぼ同じ1日あたり約100件であった。年間の救急件数を前年と比較するとトータルでは203件の減で、31,757件であった。ただ、一昨年は猛暑日が多かったため、熱中症だけで前年より290件減になっているので、それ以外では微増となっている。
- ・救急車が全車出動している回数が非常に多いので、昨年は6月から9月までの熱中症多発期と12月から2月までのインフルエンザ多発期には、予備車で臨時救急隊を編成して対応して

いる。財政状況が厳しい中、令和3年度に1隊増やしていただけることになっているので、それまで事故がないように努めていきたい。

- ・令和3年度には、救急隊の増隊、指令管制システムの更新、旧若葉小学校跡地に新大庄出張所の完成という3つの大きな事業があるので、令和2年はこれに向けた進行管理をしっかりと行っていきたい。

議会事務局長から報告

- ・業務最終日の12月27日の夜に、建設消防防災委員と事務局職員が東西2班に分かれて、年末火災特別警戒の激励のため各消防施設を巡回した。
- ・まもなく予算議会がスタートし、重要案件も多々審議されることになるので、各局とも連携を密にしながら、審議が円滑に進むように努めていきたい。加えて、昨年12月定例会からスタートしているタブレット端末の試行運用は概ね順調に滑り出すことができているが、6月定例会からの本格導入に向けて、さらに周到に準備を進めていきたい。

教育参与から報告

- ・各施設は12月28日まで通常開館、1月4日から再開している。また、31日までWOODYのトイレ改修や、風呂場のタイル・ポンプ等の取替工事を行った。1月3日には4日からの開館に向けて点検を行っている。
- ・今年はオリンピックイヤーということで、聖火リレーやオリンピックへの支援については第一に行っていきたい。そのため、例年10月に行っていたサマーフェスティバルも前倒しでやる予定にしている。また、WOODYの改革についても昨日プログラムが固まったのでしっかりとっていききたい。

白畑教育次長から報告

- ・年末年始は事件、事故等はなかったが、今日の始業式は警報発令により中止とした。
- ・1月5日にスポーツ推進課の職員が出勤し、東京オリンピック聖火リレー開催ののぼりを本庁各館入口と教育・障害福祉センター入口に掲示した。尼崎市では5月25日に聖火リレーが行われる予定なので、警備等で各局の皆さんにもご協力いただくかもしれないがよろしくお願ひしたい。
- ・教育委員会では今年はイベントが目白押しとなっている。既に1月7日から中央図書館の開館100周年事業を行っており、神戸新聞にも大々的に取り上げていただいた。また、1月25日開催予定の尼子騒兵衛さんの講演会には、既に定員70人を超えて全国から応募がある。オリンピック関連については、先ほど申し上げた5月25日の聖火リレーと7月24日からの本番で尼崎市ゆかりの選手が出場する際にはパブリックビューイングなどの催しを行っていきたいと思っている。さらに秋には歴史博物館もオープンするので、市民にもしっかりと周知をして万全の体制を整えて開館できるようにしたい。

北垣教育次長から報告

- ・昨年4月から着任したが良いことも悪いこともたくさんあった。各学校園では3学期が1年の締めくくりとなるので、終わり良ければ、という形で終えてほしいと思っている。私は3月で退職になるが、引き続き何らかの形で尼崎の教育のお手伝いをし、子どもたちのために力を注いでいきたい。

教育長から報告

- ・歴史博物館の開館、オリンピック・パラリンピックと聖火リレー、中央図書館100周年とい

う3つの事業があり、社会教育部に日が当たる1年となるのでしっかりと盛り上げていきたい。また、武庫体育館の複合機能化という議論やスポーツ振興計画の策定もあるので、スポーツ関係の振興もオリンピックと合わせてしっかりと進めていきたい。あと教育振興計画もできるので計画に基づいてしっかりと書かれたことを実現していく1年にしたい。学校教育関係では私が教育長に就いてから色々な事件事故が起きているが、とにかく命に係わる事件事故を未然に防止できるように努力していきたい。

理事（こども青少年局参与）から報告

- ・昨年10月にひと咲きプラザが全面オープンし、昨年はどちらかというと助走期間という感じであった。今年からその真価がシビアに問われることになるので、福祉・保健・教育を連携した形での有機的な統合ということが非常に大きなミッションであるし、子どもファーストという言葉の軸を置きながらその運用に努めていきたいと思う。また、昨年は体罰事案等、子どもの人権が脅かされるような事態が発生しているので、子どもの人権をどのように守るかという視点からも検討していきたい。

吹野副市長から報告

- ・昨年7月に副市長に就任しまだ1年経っていないので、とりあえず1年間経験させていただいて仕事を見通せるようになったうえで、担当職務をしっかりと努めていきたい。

森山副市長から報告

- ・令和という時代になったが、仕事の仕方がまだ昭和かなというところが残っているように思う。それをどう変えていくかを考えないと職員の負担は減らない。特に現場管理の部門の仕事の在り方や、どういったら効率化できるかを考えていかないと少数精鋭の中では仕事が回らないので、総務局とも関わるが現場目線で整理していきたい。また、外郭団体についても考え方の整理をしているところであるが、やはり外郭団体ができた当時に比べると公益財団法人の改革が入ったことによって外郭団体の経営基盤そのものが揺るがされているような仕組みになってしまっている。指定管理者制度が新しく見直されるのと同様に、外郭団体がいかに政策パートナーとして組める団体になるかというのも今後の団体の在り方に影響してくるので、それぞれの所管局が外郭団体とどういうパートナーシップを組めるのかということは当然考えていかないといけない。そういうことも含めて、市職員と市を取り巻く様々な関係者の在り方を考えていく1年にしたい。

市長から報告

- ・今日の報告を聞いて、私が就任した10年前と比べると、組織全体のことや若手の育成といった話題が出てくるような年始の報告になったな、これまでの取組が少しずつ実を結んでいるのかなと思う。一方で、副市長からもあったように、次に私たちがやらないといけない改革というのは意識と仕事のやり方で、昭和の体質を令和の体質にしていくという取組になると思う。目の前にわかりやすい課題があるわけではないが、根本的に変えていかないといけない。業務執行体制の見直しということで色々な取組を行ってきたが、アウトソーシングするかしらないかということが業務の見直しではなくて、この市役所の職員一人一人の力が十分に発揮されるような組織づくりということがこれから非常に大事になってくる。私たち一人一人がプライドを持ち、やりがいを感じて、こういったパブリックな仕事をやっていくということを高めていくような1年にしたい。

2 その他

- 医務監から、アスベストセミナーin あまがさきの開催について説明。

以 上